



2007年8月19日

いま起きつつあること…

神社へ参拝が新聞やテレビで問題にされます。いったい「靖国」って何が問題なのでしょうか。

靖国神社は、明治天皇によつて設立され、天皇に忠義をつくして戦死した人を「英靈」として称え祀りつづけてきた神社であり（一九四五年までは国營）、空襲や原爆などで亡くなつた市民約80万人は含まれません。

戦後、一宗教法人となつた靖国神社に、国の代表者たちは繰り返し参拝を続けてきました。「神社は憲法で言う宗

国旗の代表者が一宗教施設に公式に参拝するなんておかしいと思つませんか？

国家が一丸となつて戦争を行ふには、「戦死者の顕彰システム」と、「国のために命を捨てる」とは名義なじみと教え込む学校教育の二つを必要とします。

戦時中、お国のために！
天皇のために！ といつて、

警戒しましょう！　国のために人々があるわけではありません。個人の権利を守るために日本国があるのです。

よりに、未来においても靖国神社にこの役割を担わせようとしているのです。なぜなら国家は戦争に備えているからです。

あれ? なんだか似ているような…

国家が一丸となつて戦争を行つには、「戦死者の顕彰システム」と、「国のために命

幾万の命がいの国家権力の被害者となつたことでしょう。あれ? なんだか似てませんか? 最近、教育の現場で、妙に愛国心とか「日の丸」「君が代」とか…。教育の憲法である「教育基本法」も変えられてしまつた中で、平和憲法まで手放したら、再び「お国のために」って掛け声が聞えてきそうな…。



★おすすめ本

『武力で平和はつくれない』
——私たちが改憲に反対す

市區
會同出版